

V 蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会の取組

1 本年度のネットワーク協議会の取組

- (1) 代表者会議の開催(6/5)
 - ・ 25年度活動方針・計画等の提案
- (2) 実務者会議の開催(6/5 7/24 9/25 11/20 2/21 5回)
 - ・ 24年度における各機関の相談件数の集約
 - ・ 支援マップ(関係機関用)の作成
 - ・ 各機関の相談支援状況と課題について情報交換・・・スムーズな連携、互いに顔の見える連携をめざして
 - ・ 各機関の相談窓口の市民への紹介方法の検討
- (3) 実務者ワーク会議の開催(4/17 庁内の福祉・児童・健推・観商・学校・文スの各課担当者及びサポートステーション職員)
 - ・ 本年度のネットワーク協議会の方針等について検討
- (4) 研修会の開催(11/20 市民会館大会議室にて)
 - ・ 講師に青少年生活就労自立サポートセンター名古屋事務局長 青木美久氏を招き、「不登校・ひきこもりから回復した私」と題して講演会を開催した。ひきこもりについての理解を深めるとともに、その支援で大切なことについてアドバイスをいただいた。参加者84名
- (5) 支援マップの配布
 - ・ 相談機関の業務内容とその窓口について紹介した支援マップを作成し、各機関、中学・高等学校、市内の民生委員に配布し、困難を有する子ども・若者に接したり、相談を受けたりしたとき、関係機関につなぐことができるよう協力を求めた。
- (6) 各機関の窓口を市民に紹介
 - ・ 広報「がまごおり」12月号にて、子ども若者支援に関する各機関の窓口を紹介し、市民に周知した。
 - ・ 年度当初に行われた各小中学校保護者会にて、相談窓口の紹介プリントを配布し、保護者に周知した。
- (7) 市内7中学校とサポートステーションとの連携強化
 - ・ 中学卒業時に進路未定の生徒のその後をサポートステーションが相談、支援できるよう、中学校と連絡を密にした。
- (8) 他市との情報交換
 - ・ ネットワーク協議会を立ち上げた他の市と、運営方法等について情報交換を密に行い、本市の活動推進に生かした。

2 本年度の成果

昨年度に引き続き、実務者会議を定期的で開催したため、各機関の担当者同士の連携がスムーズに行われるようになった。ある施設で問題を抱える若者を他の機関の職員と連携を図り、一緒に家庭訪問等をして支援した例もある。

また、本年度初めて広報「がまごおり」で各機関の窓口について紹介し、市民への広報を行った。これは、支援期間マップの作成・配布とあわせて、ネットワーク協議会の存在と活動内容を理解していただくよい機会となった。

中学校卒業時に不登校等で進路が未定のままである生徒に、がまごおり若者サポートステーションが主体となって卒業後の支援が進められるような体制作りを進めることができた。

3 今後の課題

- (1) 本市のひきこもりの実態を把握するため、民生委員さんに協力をお願いし、それぞれの地域で家庭にひきこもっている若者の数についての情報を集めた。しかし、推定値(本市規模では約400名)とは程遠い数値しかでなかった。これは、ひきこもりが家族やそれに近い人にしか分からないというデリケートな面があることを裏付ける数値でもあった。相談・支援を求めたくてもなかなか声を出しづらい若者やその家族にとって、相談機関の在り方や総合相談窓口の設置についてさらに検討していきたい。
- (2) ひきこもりの子ども若者への支援は、カウンセラー等、専門的な知識をもつ相談・支援員が必要であるが、支援員の確保または養成をネットワーク協議会としてどう進めていくか。また、本人にとって「伴走してくれる」身近な支援員も必要であるが、それをどのように確保していくか課題である。
- (3) 困難を抱える子ども若者への支援の必要性をはじめ、ネットワーク協議会の活動内容等について広く市民に知っていただき、協力していただくための方策を今後も検討していきたい。